

里山の秋オープンフェスタで本校で繁殖させたキジを放鳥しました

本校農場では、果樹や野菜、草花の栽培や利用に加え、ヒツジやニワトリ、クジャクなどの動物の飼育を行っています。特にキジについては、里山保全活動として、人工的に繁殖させ、ほぼ毎年、成長したキジを放鳥しています。

このたび、能勢町にある「豊中市青少年自然の家わっぱる」から依頼があり、11月20日（土）の「里山の秋オープンフェスタ」で、本校と共同でキジの放鳥イベントを行うことになりました。

この日は、天候に恵まれ、とても暖かい一日でした。本校からは、キジの飼育に係わっている農業クラブの生徒6名が参加し、朝から、「キジとイモリの体験コーナー」を通じ、参加した子どもたちやその家族に対し「キジとイモリの説明やワークショップ」を行いました。

午後からのキジの放鳥には、100名以上となる参加者全員が集まり、緊張の高まる中、行われました。キジはかご（ケージ）の中でもかなり興奮しており、捕まえるのに苦労しましたが、捕まえられた後は、少しおとなしくなり、参加した子どもたちに体をなでてもらえるほどでした。一斉に放されたキジ5羽は、それぞれ別方向に飛び立ちました。この地の豊かな自然が維持され、多くのキジが生息してくれることを期待しています。



キジのワークショップ（ぬりえ体験）



子どもたちとキジとのふれあい



飛び立つキジ